東北大学　「イオン防災環境都市創生 共同研究部門（二期）」

設置の背景と目的

●自然災害の激甚化や大規模感染拡大などに加えて地球規模環境の変化などの影響により，都市や地域でのリスクが増大しており，その対応が求められている．

●地域の防災拠点でありながら、緑豊かな環境整備により都市や地域が創出される、安全で安心できるレジリエント・コミュニティー（地域連携拠点）の創生を目指して，イオン環境財団，イオンモール，東北大学による共同研究部門を，2021年10月に設置した．

●2024年10月の研究期間更新において，研究成果と継続が必要な研究内容を踏まえ，「防災・減災」および「地域連携拠点」の2つの課題を設定して共同研究の活動を実施する．

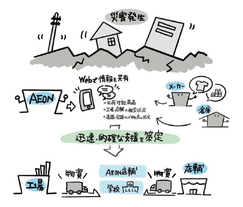
研究内容

1. 防災・減災戦略の検討と提案

災害時にも安心・安全を提供できるコミュニティーづくりを目指し，避難計画およびBCPの作成と導入、地震計の設置などによる早期安全確認，周辺施設との連携，災害時での支援サポートの充実を通じて，新しい防災・減災の取組みを検討する．

2. 地域連携拠点の形成支援

緑に包まれた居心地の良い滞在空間の創出する中で，東北大学旧雨宮キャンパスにおける賑わいや活気を野外空間に創造することを目指す．そのために，ワークショップやイベントなどを企画・実施し，自由に憩い・滞留できる環境の整備，まち（ヒト）とのシームレスな空間づくりの中で，周辺教育機関も含めた地域との繋がりを持った連携拠点づくりを支援する．



災害でも迅速・適切な支援（物流、情報提供）

新施術を活用し、賑わいの中で地域との繋がりを強化

本拠点から周辺地域との連携

期待される成果

✓都市での環境にも配慮したレジリエント都市づくりの基本コンセプトを提案

✓地域参加型の防災・環境保全活動のサポートシステムの提案

✓レジリエント・コミュニティー取組が発展し，他の地域でも参考となり，仙台防災枠組（グローバルターゲット；D,E,F）やSDGsなどの国際的な活動にも貢献できると期待（SDGs目標；9,11,13,17）

ポット苗づくり

■地域共創の一環として、また地域性種苗の創出を目的として、2022年秋以降近隣にお住まいのお客さまとともにポット苗づくりを行った。2021年11月23日に課題抽出のため本共同研究関係者によるFSを行い、2022年11月19日・2023年10月29日にお客様とのポット苗づくりを行った。成果物はAM仙台上杉の植樹祭にて植栽を行った。

■ポット苗のうち約100苗を、地域共創の一環として仙台市立上杉山通小学校4年生の皆さんが育ててくれることとなり、環境教育を兼ねて苗守任命式（2021年12月16日）を行った。また翌年、同様に約50苗を国立大学法人宮城教育大学付属小学校 でも育ててくれることとなった。※苗守：本共同研究関係者間にて名称を募集し決定した造語。

どんぐり拾い、実生苗の掘り起こし

2022年11月19日撮影＠AM新利府 北館

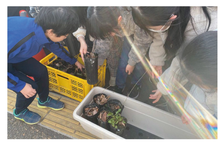
2021年12月16日　＠上杉山通小学校

2023年10月29日撮影＠宮城県民の森

2022年6月10日　＠上杉山通小学校

苗木の移設と展示

■苗守任命式以降，ポット苗の育生を担ってくれた上杉山通小学校と宮城教育大学付属小学校の児童たちが卒業するのを機に，2小学校から（仮称）AM仙台雨宮の敷地南東角へ計約150苗を移設した（2024年2月14日）．移設後は地域のお客さまに苗の生長を見守っていただけるよう，仮囲いの一部を透明化して状況を開示した．



苗木の植樹

●2025年9月6日（土）にイオンモール仙台上杉にて植樹祭が実施された．

●この植樹祭は「イオン ふるさとの森づくり」の一環として行われた．

●地域の方々などの手で，約3,000本の樹木が植えられた．この中には，地域の里山のどんぐり から作成され，上杉山通小学校・宮城教育大学附属小学校児童によって育成されたコナラの苗も含まれている．

●樹種：　高・中木：モミ・コナラ・ネズミモチ など
低木：ハイイヌツゲ・アオキ など
合計 約40種類 の樹種を選定して植栽．

「環境負荷の軽減」を目指し
パネルでの制作を無くし
FSC認証紙を使用した
ポスターにて製作を行って
おります。
ミックス
紙｜責任ある森林管理を支えています
FSC® C183458

イオン環境財団

東北大学

「環境負荷の軽減」を目指し
パネルでの制作を無くし
FSC認証紙を使用した
ポスターにて製作を行って
おります。
ミックス
紙｜責任ある森林管理を支えています
FSC® C183458